

今日のキーワード 『街角景気』天候要因のマインド下押し続く

「景気ウォッチャー調査」、いわゆる『街角景気』とは、景気に敏感なタクシー運転手やコンビニエンスストアの店長など、地域の景気の動きを敏感に観察できる立場にある約2,000人を対象とした調査です。2月の『街角景気』は現状判断DI、先行き判断DIともに前月から低下しました。当社独自のテキストマイニング分析の結果によると、前月に引き続き天候要因がマインド悪化に影響したようです。

ポイント1

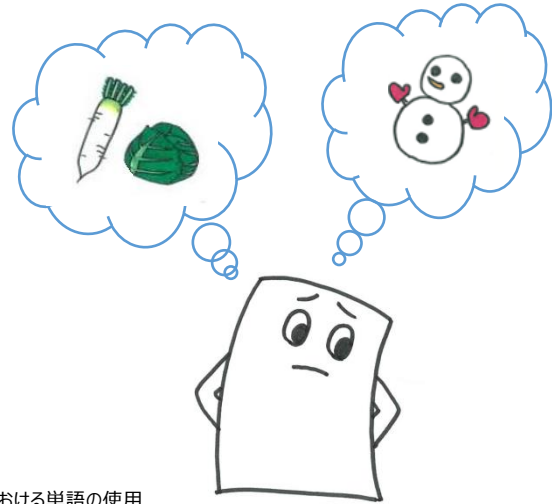
現状判断DIは3カ月連続低下して48.6に 先行き判断DIは50ポイントを上回る水準を維持

- 2月の『街角景気』によると、現状判断DIは前月の49.9から1.3ポイント下落して48.6と、景気判断の分岐点とされる50ポイントを2カ月連続で下回りました。内訳項目の家計動向関連、企業動向関連、雇用関連の全てで前月よりDIが悪化しました。
- 先行き判断DIは前月から1.0ポイント下落して51.4となりました。こちらも、家計動向関連、企業動向関連、雇用関連の全ての項目でDIが悪化しました。4カ月連続での低下となりましたが、景気判断の分岐点とされる50ポイントを引き続き上回っており、先行きへの期待感は維持されていると考えられます。

ポイント2

ウォッチャーのコメントを分析 前月に続き天候要因がマインド下押し

- 街角の声をより客観的に分析する、当社独自のテキストマイニングによる分析手法^(*)によると、現状判断では「大雪」、「寒波」や、「野菜」、「高騰」といった単語が1月に続き多く使用されており、消費者マインドの悪化の主因と見られます。
- 先行きについては、「節約」や「不安」に関わる単語の使用数が小幅に増加しました。また、2月に金融市場が大きく調整したことから「株価」、「為替」、「円高」といった単語も増加しました。ただし、いずれも変化は小幅であり、先行きへの期待感を損ねるほどではないと考えられます。



(*) テキスト（文書）をコンピュータで探索する技術の総称。典型的な方法として、テキストにおける単語の使用頻度を測定し、テキストの特徴を統計的に分析・可視化することで、背後にある有益な情報を探ることができます。

今後の展開

天候要因の回復がDI改善につながることを期待

- 内閣府は、基調判断を「天候要因等により一服感がみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、人手不足やコストの上昇に対する懸念もある一方、引き続き受注、設備投資等への期待がみられる」と据え置きました。気象庁発表の3カ月予報（3～5月）では、平均気温は平年並みか高くなることが予想されています。天候要因は徐々に落ち着きを見せており、天候要因の回復とともに景況感が上向くことが期待されます。

ここも チェック!

2018年2月15日 『実質GDP』は8四半期連続プラス成長
2018年2月13日 『街角景気』は天候要因で現状判断DI悪化

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。